

【多摩丘陵・私の出会った生き物たち 55】

『冬の蝶たち』

桑原紀子

前号に書いた、師走のクロアゲハ幼虫は、12月29日に無事緑色の蛹に変身しました。

蝶は、幼虫から前蛹(ぜんよう)になり、蛹になるのですが、廊下の壁にくっついた前蛹は、そのまま5日も過ぎてしまいました。普通は前蛹になると、1、2日で蛹に脱皮するのです。縮んだ幼虫の形の前蛹を見ていると、志半ばで力尽きたように思えて、なんだかつらく、寒さで死んだのだと思いました。

ところが、もう取り去ろうと思った翌日、蛹になっていたのです。逆境の時は、ゆっくり時間をかけて変態をなしとげるのですね。暖房も届かない廊下は師走の冷え込みですが、環境に適応していく生き物の生きる幅の広さに、感心しました。

年も明け、正月の2日には、鶴川尾根を散歩しました。朝

の寒さに比べ、日中は、青空と陽射しのぽかぽか陽気です。春に生まれる小さなベニシジミ蝶が飛んでいて、(早いなあ)と、驚きました。

越冬蝶のヒメアカタテハは3頭もつれあうように空に舞っています。水色のウラナシジミも飛んできて、笹に止まっています。越冬蝶なので、翅はボロボロですが、陽射しの中で、輝いてみえます。

正月というのを忘れてしまいそうな、生き物たちとの出会いです。

尾根からは丹沢の山並みと白い富士が見え、そこに蝶が舞い、にぎやかな新年の始まりでした。



クロアゲハ蛹